# サバ統一党（PBS）と州議会選挙

佐藤　考一

# The Trail of Parti Bersatu Sabah (PBS) in the State Elections 1985-1999

Koichi Sato

Obirin University, *Obirin Review of International Studies,* No. 12, 2000
桜美林大学『国際学レヴュー』第12号（2000年）

**Summary**

The East Malaysian state of Sabah is a plural society, which is composed of the various ethnic groups such as Kadazandusuns: ethnic majority, Bajaus, Muruts, Malays, Chinese, and so on. Most of the Kadazandusuns are Christians while some of them are converted to Muslims, and the Bajaus and Malays are Muslims. Though Sabah is oil-rich state, it receives nominal five percent royalty from the federal government. The state economy heavily depends on the development allocation from the federal government, and the investment from the Malay peninsula. Therefore, the keys to success for the political parties in Sabah, are the maintenance of the ethnic harmony in the state and the good bargain with the federal government.

Parti Bersatu Sabah (PBS: Sabah United Party) was established in 1985. It has been led by Joseph Pairin Kitingan, the patriarch of Kadazandusun, who claims "Sabah for Sabahans," and demands bigger portion of oil royalty. The party includes some Chinese and Muslim members, and proclaims itself a multiethnic party. Though PBS won four straight victories in the state elections from 1985 to 1994, it lost the government party status just after the state election 1994, because of the party-hoppings of its elected candidates. It couldn't return to the government party in election 1999.

This article is to analyze the trail of PBS, mainly in connection with three issues: its centripetal power in the ethnically diversified state, its relations with the federal government, and the leadership of party president, Joseph Pairin Kitingan.

* * *

## はじめに

サバ統一党（Parti Bersatu Sabah; 以下、PBS と略す）は、東マレーシアのサバ州で最大のエスニック・グループ[1]である、カダザンドゥスン(Kadazandusun) 人を中心とする、マルチ・エスニック政党である。PBS は、1985年州議会選挙直前の 3 月に設立されて以来、カダザンドゥスン人の大族長（Huguan Siou）の称号を持つ、パイリン（Datuk Joseph Pairin Kitingan）に率いられ、華人やムスリム（イスラム教徒）のエスニック・グループの一部の支持も得て、同年以降の 4 度のサバ州議会選挙に連勝した、州の政権党であった。だが、PBS の政権は安定していたとは言い難く、マレーシア連邦政府やサバ州内の他の政党との紛争が絶えず、さらには党内の内紛も手伝って、1994年の州議会選挙では勝利したにも拘らず、1 月足らずでその政権は瓦解し、99年州議会選挙では獲得議席数第二位で、野党の立場に留まった。

本稿に於いては、西マレーシア（マレー半島）とは異なるサバ州の社会や政治の環境との関連から、PBS の盛衰を跡付けることを目的としたい。以下、第 I 節ではマレーシア成立以来の、サバ州の社会・政治環境を西マレーシアとの比較から概観する。続いて、第 II 節、第 III 節では、その環境の下で PBS が参加した、1985年以降のサバ州議会選挙の動向を85年から90年までと、94年から99年までに分けて分析し、最後に若干の考察を付け加えることとしたい。

## I　サバ州の社会・政治環境

マレーシアを含む東南アジア諸国では、いずれも多様なエスニック・グループを包含した、ファーニバル（J. S. Furnival）が言うところの複合社会(plural society)[2]が形成されている。ただ、その複合社会の性格やエスニック・グループの構成比は、地域によって変化があり、西マレーシアと、ここで取り上げるサバ州では、その違いが大きい[3]。そこで、双方の複合社会の違いと、その影響を受けた政党の成立状況を概観する。

西マレーシアは、1963年のマレーシア連邦の設立以前はマラヤ連邦（57年～63年）という名で、英連邦内の 1 つの自治政体をなしていた。その複合社会は、91年現在で人口1413万1000人、構成比で見ると、56.9%を占める最大の土着エスニック・グループであるマレー人（Malays）と、移民もしくはその子孫で28.1%を占める決して小さくはない少数派エスニック・グループの

華人（Chinese)、そしてタミル人移民とその子孫を中心とし、9.2%を占める、いわゆるインド人（Indians）の3つを、主要な構成要素としている。[4)]

各グループの、言語・宗教・文化（慣習）・歴史的背景・遺伝的特徴等の概要を表1に示した（もちろん、各グループの成員全員が均等に、ここに挙げた要素の全てを備えているわけではないが、互いにこれらのいくつかを共有し合っていることで、グループとしての一体感が形成されているのである)。各グループの言語は、いずれも互いに異なる書き言葉があり、宗教や文化も互いに共通するものが少ない。相互のグループ間の社会的な距離[5)]が大きく、各グループのアイデンティティが確立した状況であり、同化や統合には困難が伴うことがわかる。ファーニバルの指摘した「二つ以上の要素や社会秩序が各々生きており、一つの政治単位に混ぜ合わされない」、複合社会の特徴がよく表れていると言えよう。そこで、これを典型的な、あるいは固定的な複合社会[6)]と呼ぶことにしたい。

政党も、これらのエスニック・グループの区分に沿ったものが優勢であり、西マレーシアを基盤に、現在まで連邦政府を構成している国民戦線(Barisan Nasional; 以下、BNと略す）は、マレー人政党の統一マレー人国民組織(United Malays National Organisation; 以下、UMNOと略す）の指導下に、マレーシア華人協会（Malaysian Chinese Association; 以下、MCA と略す)、マレーシア・インド人会議(Malaysian Indian Congress; 以下、MICと略す)、小規模なマルチ・エスニック政党のマレーシア民政運動党（Gerakan Rakyat Malaysia; GRM）等が集まる連合政権党である。[7)]

BN は、1969年の5月13日事件以前は連合党（Alliance）と呼ばれていたが、事件後、現在の形に改組され、UMNO の政治的指導力が強まった上、GRM が加わった。しかし、諸政党の構成を見ると、上記の3つのエスニック・グループ別政党を中心とした連合政権であることについては、マラヤ連邦の設立以来変化は少ないと言える。

これに対し、マレーシア連邦の設立に参加するまでは、北ボルネオと呼ばれる英国の直轄植民地で、住民が政治活動をすることが少なかったサバ州の複合社会は、1991年現在では人口186万3000人、マレー人は6.6%で少数派である。[8)] 最大のエスニック・グループは前述した通り、カダザンドゥスン人で18.4%を占めている。他はバジャウ人(Bajaus)11.4%、ムルット人(Muruts)2.9%、その他の土着エスニック・グループ14.5%と、華人11.7%、インドネシア出身者（Indonesians）7.6%、インド人0.4%がいる。また、それ以外にマレーシア市民権を持たないバジャウ人やスールー人（Sulus）の移民がおり

**表１：マレー半島・サバ州の諸エスニック・グループの概要[1)]**

| エスニック・グループ | 言　語 | 宗　教 | 文化（慣習） | 歴史的背景 | 遺伝的特徴 |
|---|---|---|---|---|---|
| マレー人 | マレー語[2)] | イスラム | イスラム/ヒンドゥ | 土着 | 褐色の肌 |
| 華　人 | 華　語 | 仏／道[3)] | 中国（儒教） | 中国南部移民 | 黄色の肌 |
| インド人 | タミル語 | ヒンドゥ | ヒンドゥ | インド南部移民 | 暗褐色の肌 |
| カダザンドゥスン人 | カダザン語 | キリスト教　イスラム　アニミズム | アニミズムに基づく土着の慣習/西欧の慣習 | 土着(サバ州) | 褐色／黄色の肌 |
| バジャウ人 | バジャウ語 | イスラム | 漂海民の慣習/イスラム | フィリピン・東マレーシア・インドネシア島嶼部に土着 | 褐色の肌 |

（注１）ここに挙げたものの他に、マレー半島には少数のタイ人（上座部仏教信仰）とオラン・アスリ（アニミズム信仰）が、サバ州には第Ｉ節に挙げた諸グループがいる。

（注２）マレー語は、マレーシア語として国語の地位を得ているので、現在は殆どのエスニック・グループが理解出来る。

（注３）ここでいう仏教は、タイ人の信仰する上座部（小乗）仏教ではなく、大乗仏教である。また、道は道教を指すが、仏教寺院を訪問すると両者の、あるいは他の民間信仰対象（ex 関帝）との混淆が著しいことがわかる。

〔出典：筆者作成〕

(多くはインドネシアかフィリピン出身のムスリムで不法移民)、これらがサバ州人口の24.9%に達している。

そして、この複合社会を構成する各エスニック・グループは、前述した西マレーシアの複合社会とはだいぶ異なっている。代表的なエスニック・グループのカダザンドゥスン人とバジャウ人の言語・宗教・文化（慣習）・歴史的背景・遺伝的特徴等の概要は既述の表１に示したが、少し詳しく、西マレーシアの各グループとの違いを見て行こう。

カダザンドゥスン人は、米作と狩猟及び河川漁業を主体とするサバ州の先住民であるが、まず、その名称の使用は1989年からであり、それ以前は自らをカダザン人と呼ぶ地域と、ドゥスン人と呼ぶ地域が混在していた（この状況は現在もある程度まで存在する)。[9)] これは、彼等の多くは地形が峻険で交通が不便なサバ州の中で、海岸だけでなく内陸に至るまで、地理的に広く分散して居住しており、互いのコミュニケーションが少なかったこととも関係があろうが、いずれにしても１つのエスニック・グループとしてのアイデン

ティティが確立しているとは言い難い状況であった。[10)]

さらに、彼等のエスニック言語はいくつかの方言に分かれたドゥスン語(もしくはカダザン語）であったが、この言語は西マレーシアの諸エスニック・グループの言語と異なり、元来は書き言葉がなかった（いくつかの先行研究によれば、新聞によるカダザン語の書き言葉の普及が試みられるのは、1950年代の後半である)。[11)] 書き言葉と結びついた印刷資本主義の発達が、国民（あるいはその候補となるエスニック・グループ）の形成に大きな役割を果たすというアンダーソン（Benedict Anderson）流の理解に立てば、このような書き言葉の発達の遅れは20世紀初頭に既に書き言葉のあった他のエスニック・グループに比して、カダザンドゥスン人の一体感の形成と政治的な動員への障害を招いたことが容易に想像される。なお、現在はマレーシア連邦政府の統合政策で、マレー語（マレーシア語）の教育が課されており、多くの者がこれを解するようになっている。[12)]

次にカダザンドゥスン人の宗教は、元来はアニミズム（精霊信仰）であったが、カソリックの布教でキリスト教徒が増え、さらにマレーシア設立後は連邦政府の奨励で、イスラムの布教も行われた。[13)] このため、1991年の統計[14)]ではアニミズムは1.1%で、一番多いのはキリスト教徒の73.9%、次いでムスリムの17.8%となっている。自らもカダザンドゥスン人の政治家だったルピン（Datuk Herman J. Luping）は、カダザンドゥスン人の場合、アニミズムからキリスト教への改宗ではエスニック・アイデンティティの変化は起こらないが、ムスリムへの改宗者は自らをマレー人と見なすケースがあることを指摘している。[15)] これは、宗教がカダザンドゥスン人のアイデンティティにとって重要であることを示しているが、エスニック・グループの内と外を区別する境界を越える改宗が起こっていることは、グループとしての凝集力が弱いことを示す証拠でもある。

文化（慣習）を見ると、彼等は先祖伝来のアニミズムと米作農耕社会の儀礼・慣習を維持し、それらとキリスト教伝道使節のもたらした西欧の慣習の混淆の中にいるが、英国の植民地支配の間に、村落間の争いによる首狩り等の戦闘的な慣習は禁止された。[16)]

一方、バジャウ人は、元来はサバ州からフィリピンのミンダナオ島まで広く活動範囲とする漂海民であったが、現在はマレーシア国籍保持者は海岸地域等に定住し、漁業や農業、畜産業に従事している。[17)] エスニック言語は、フィリピンの同族と共通のバジャウ語だったと言われるが、現在は前述した連邦政府の方針で、マレー語が普及している。[18)] バジャウ人の宗教も、元来

**表 2 ：マレーシア設立後のサバ州議会選挙の結果**

| 年 | 政党名 | 得票率 | 当選者数 |
|---|---|---|---|
| 67 | USNO | 40.7 | 14 |
| | SCA | 4.0 | 5 |
| | UPKO | 40.8 | 12 |
| | 無所属 | 9.0 | 1 |
| 71 | USNO | 無投票 | 28 |
| | SCA | 当選 | 4 |
| 76 | BERJAYA | 53.9 | 28 |
| | USNO | 37.3 | 20 |
| | SCA | 6.4 | 0 |
| | その他の政党、及び無所属 | 2.3 | 0 |
| 81 | BERJAYA | 61.4 | 44 |
| | USNO | 20.1 | 3 |
| | SCCP | 6.2 | 1 |
| | PASOK | 7.4 | 0 |
| | その他の政党、及び無所属 | 1.6 | 0 |
| 85 | PBS | 36.4 | 25 |
| | USNO | 26.8 | 16 |
| | BERJAYA | 30.5 | 6 |
| | PASOK | 2.2 | 1 |
| | その他の政党、及び無所属 | 4.0 | 0 |
| 86 | PBS | 53.7 | 34 |
| | USNO | 20.3 | 12 |
| | BERJAYA | 17.5 | 1 |
| | SCCP | 2.5 | 1 |
| | その他の政党、及び無所属 | 5.6 | 0 |
| 90 | PBS | 57.7 | 36 |
| | USNO | 27.3 | 12 |
| | BERJAYA | 7.3 | 0 |
| | LDP | 4.1 | 0 |
| | その他の政党、及び無所属 | 3.6 | 0 |
| 94 | PBS | 50.0 | 25 |
| | UMNO (BN) | | 18 |
| | SAPP (BN) | 46.7 | 3 |
| | LDP (BN) | | 1 |
| | AKAR (BN) | | 1 |
| | その他の政党、及び無所属 | 3.3 | 0 |
| 99 | UMNO (BN) | | 24 |
| | SAPP (BN) | 45.3 | 3 |
| | PDS (BN) | | 2 |
| | LDP (BN) | | 2 |
| | PBS | 40.3 | 17 |
| | その他の政党、及び無所属 | 14.4 | 0 |

(注 1 )1967年以前の選挙は、郡議会選挙として、マレーシア設立直前の62年12月と63年 1 月に実施され（一部がブルネイの反乱で実施延期された)、USNO53、UPKO の前身である、UNKO と Pasok Momogun が夫々39と12、北ボルネオ国民党27、無所属 6 という結果であった。この結果を基礎にサバ連合党政権が成立した。[山本 1993: 30]。なお、99年現在のサバ州議会は選挙選出の48名に加え、与党から指名議員 6 名が加わるので、総数は54名となる。

出典：[NSTP:160-161]、『アジア動向年報』各年版、『東南アジア月報』各号、*New Sunday Times,* 14 Mar. 1999, より筆者作成。

はアニミズム等の土着宗教だったが、マレーシア連邦の設立以前からイスラムへの改宗が進んでおり、1991年の統計[19] ではムスリムが99.7%を占めるまでになっている。彼等の間では文化的にもイスラムの影響は強く、筆者が98年に訪問したバジャウ人村落の住民や建物の印象は、西マレーシアやシンガポールの水辺のマレー人村落 (Kampung) のそれと殆ど変わらないものだった。[20]

以上、カダザンドゥスン人とバジャウ人の、エスニック・グループとして

の特徴を見てきた。両グループとも、マレーシア連邦政府の統合政策、即ちマレー語教育やイスラムの奨励の影響を受けつつあるが、元々イスラムへの改宗が進んでおり、マレー人との社会的距離を縮めているバジャウ人に対して、カダザンドゥスン人はキリスト教徒が多かったこともあり、統合政策の成果は部分的である。但し、エスニック・グループとしての凝集力は強くはなく、地域毎にそのアイデンティティには、ばらつきが見られる。

以上のように、構成要素である一部のエスニック・グループの凝集力が弱く、人の移動の起こり易い複合社会を、流動的な複合社会と呼ぶことにしたい。問題は、サバ州の住民が、この流動的な複合社会を構成している上に、西マレーシアのマレー人のような人口の過半数を上回る、はっきりした多数派のエスニック・グループが存在しないことである。こうした社会環境の下では、各エスニック・グループの区分に沿った政党が設立されても、政治勢力として安定して、連合政権を成立・維持することは困難である。

表2に、マレーシア設立以来のサバ州の州議会選挙の結果を掲げたが、エスニック・マジョリティのカダザンドゥスン人は、1963年から67年までは、統一パソ・モモグン・カダザン国民組織（United Pasok Momogun Kadazan Organisation; 以下、UPKOと略す）を結成し、バジャウ人・マレー人・スールー人等のムスリム・グループを主に、一部UPKOに反発するカダザンドゥスン人も含んで設立された統一サバ国民組織（United Sabah National Organisation; 以下、USNOと略す）や、華人政党のサバ華人協会（Sabah Chinese Association; 以下、SCAと略す）、サバ・インド人会議（Sabah Indian Congress; 以下、SICと略す）等とサバ連合党を形成、政権党となった。[21)]

だが、連合政権はUPKOとUSNOの権力争いが絶えず、安定しなかった上、連邦政府がムスリム贔屓でムスタファ（Tun Datu Mustapha Harun; 木材利権を握るスールー人ムスリム指導者）に率いられた、USNOを支援したこともあり、USNOに比し、エスニック政党としての凝集力の弱いUPKOは次第に政治的主導権を失って行く。そして、1967年州議会選挙ではUPKOはサバ連合党から外され、党首で一時は州首相も務めたステファン（Dato Donald Stephens; オーストラリア人とカダザンドゥスン人の混血で後にイスラムに改宗し、Tun Fuad Stephensと改名）は党を解散し、党員にはUSNOへの参加を命じ、政権はUSNOとSCAの連合によって76年まで維持された。[22)]

その後、州首相になったムスタファの、汚職やフィリピンのムスリム反乱

への支援疑惑、そしてマレーシアからの独立志向等に手を焼いた連邦政府は、今度は逆にサバ州内の反ムスタファ勢力を支援し、1975年7月にサバ州で初めてのマルチ・エスニック政党、サバ人民統一党（Bersatu Rakyat Jelata Sabah; 以下BERJAYAと略す）が設立された。[23] BERJAYAは、元USNOのハリス（Datuk Harris Salleh; インド・パキスタン系人ムスリムの実業家）等のムスリム・グループと、ステファン、パイリンらのカダザンドゥスン人や華人の政治家等によって構成され、85年州議会選挙まで、単独政権を維持した。[24]

BERJAYAは、ステファンを州首相に選んだが、政権発足後わずか55日で、飛行機事故で彼が死去したため、ハリスを州首相とした。ハリスは、州の資金難から連邦の援助を得て道路・電力・学校・病院等のサバ州のインフラ整備を行ったが、それと引き替えに、連邦政府の介入を受け入れて、州住民へのイスラム改宗の強制、インドネシア・フィリピンからのムスリム不法移民への市民登録証交付、ラブアン（Labuan）島の連邦領への編入を行い、さらにサバの石油生産額の95%を国営石油会社ペトロナス（PETRONAS）へ引き渡す協定（サバ州に支払われるのは鉱区使用料（ロイヤルティ）としての5%のみ）にも応じた。[25]

パイリンは、連邦政府に対して融和的な、これらの全政策についてハリスと衝突し、1982年に閣僚を辞任、84年8月にはBERJAYAからも脱退して州議員も辞任し、補欠選挙に無所属で臨んで当選した。[26] そして、85年4月の州議会選挙の直前に、支持者を集めてカダザンドゥスン人を中心に、華人や一部のムスリムも加えて第二のマルチ・エスニック政党としてPBSを旗揚げしたのである。

以上が、PBS登場までのサバ州議会選挙と政権交代のあらましであるが、これを要約するなら、人口の過半数を超えるような、はっきりしたエスニック・マジョリティが無く、かつ流動的な複合社会においては、エスニック・グループ別の諸政党の間で、安定した連合政権を設立・維持することは難しく、相互の浸透や連邦政府の介入による動揺を繰り返し、結局総花的なマルチ・エスニック政党という形態を採らざるを得なくなったということである。これが、言ってみれば、サバ州の政治環境の特徴ということになるだろう。

問題は、このマルチ・エスニック政党が、党に参加している各エスニック・グループの間の利害調整に成功し、マレーシア連邦政府の財政支援を引き出しながら、その介入を州住民の支持を失わない程度に抑えることが出来るかどうかである。当然のことながら、政治指導者の指導力もこれらの成否に関

わる重要な要素となって来る。パイリンらの脱党を招いたBERJAYAのハリスは、これに成功したとは言えない。では、PBSとその党首のパイリンはどうだったか。これが、第II節以下の検討課題である。

## II　PBSとサバ州議会選挙（1985－90）

（1）1985年州議会選挙

4月20日、21日の両日に実施された州議会選挙は、48の議席（議席数は99年まで48議席のまま増減無し）をめぐって新政党のPBSと、連邦政府与党BNの支援するBERJAYA、そして84年にBNを除名されたUSNOに、カダザンドゥスン人政党のパソ（Pertubuhan Kebangsan Pasok Nunuk-ragang Bersatu; 以下、PASOKと略す）、西マレーシアに本拠を置く華人中心の野党の民主進歩党（Democratic Action Party; 以下、DAPと略す）等、7政党と19名の無所属候補が参加した。[27]

選挙の争点は、与党BERJAYAの連邦政府との協調によるサバの発展とムスリム優先を是認するか、それに反発するカダザンドゥスン人社会の訴えを前面に出すPBSに同調するかが中心であった。[28] 選挙後の各党の獲得議席数は、PBS26（選挙後PBSに参加したPASOK1を含む）、USNO16、BERJAYA6、となっており、結果的にマルチ・エスニック政党としてのPBSは、カダザンドゥスン人と華人の票は獲得したものの、バジャウ人・マレー人・スールー人等のムスリム票の取込みは十分でなく、彼等の票はUSNOとBERJAYAへ分散することとなった。[29]

選挙結果が判明した直後の4月22日に、USNOとBERJAYAは連立政権の樹立を画策し、当時のアドナン（Tun Adnan Roberts）サバ州元首に強要してムスタファを州首相に就任させた（この謀略の背景には、反抗的なカダザンドゥスン人の州政権樹立を好ましく思わない連邦政府側の思惑があったと言われている）。[30] 両党は、PBSから当選候補の脱党者が出て、その議席数が過半数を割ることを期待したが、PBSからの離反者は出なかった。このため、11時間後に当時のムサ・ヒタム（Datuk Musa Hitam）連邦政府首相代行が、改めてパイリンを州首相に指名したが、USNO側は不満で抗議集会を開いた他、2都市（Kota Kinabalu、Sandakan）での爆弾事件等の治安問題まで発生して、一時州内は騒然となった。[31]

選挙後、BN入りを申請して協調姿勢を示したPBSに対して、マハティール（Mahathir Mohamad）連邦政府首相は事態をより有利に収拾しようと、

再度USNO・BERJAYAとPBSの3党連立政権の設立を提案したため、パイリンはこれを拒否し、1986年2月に州議会を解散、86年州議会選挙に踏み切った。[32)]

（2）1986年州議会選挙

5月5日、6日の両日に実施された州議会選挙は、与党PBSと、UNSO、BERJAYA、PASOKに、新政党のサバ華人団結党(Sabah Chinese Consolidated Party; 以下、SCCPと略す）等、6政党と37名の無所属候補が参加した。[33)]

選挙の争点は、事実上PBS政権を信任するか否かであった。州議会解散後の3月に、USNOとBERJAYAの支持者たち(及び金で雇われたフィリピン等からの多数のムスリム不法移民)は反PBSデモを繰り返し、サバ州内を騒乱状態に陥れてPBS政権の無力ぶりを示そうとした。[34)] 州議会選挙が始まっても、彼等は同様にPBSは州を統治出来ないと有権者に訴え続け、さらにPBSは反ムスリムだと非難したが、PBS側は自らの政権は公正で自由な選挙によって選ばれたことを強調し、州内閣の構成をエスニックなバランスのとれたものにすることを公約とした。[35)]

選挙後の獲得議席数は、PBS34、USNO12、BERJAYA1、SCCP1、となっており、PBSは議席数を伸ばしたが、その背景には前回と同様にカダザンドゥスン人と華人の票、さらにムルット人票も得たこと、そして不法移民による暴力的手段を用いたUSNOとBERJAYAから、一部のムスリム票が離れたことがあったと言われる。[36)] そして、州議会選挙後、さすがにBN側もPBSの実力を認め、6月5日に与党連合への加盟を承認し、USNOにもその復帰を認めたが、これを受けてBERJAYAは7月20日にBNを離脱した。[37)]

PBSは、ライバルのUSNOと二股をかけられた状態ではあるものの、これで一応連邦政府与党からも承認を得たことになり、政権の安定のための一歩を踏み出した。そして、PBSは選挙直後の5月20日には州憲法を改正し、当選した候補者が所属政党を脱退した場合は、州議会議員の資格を失うことを盛り込ませ、自党からの議員の離脱にも歯止めを掛けることを忘れなかった(この州憲法修正は、1993年3月に最高裁より連邦憲法に照らし無効とされるまで有効だった)。[38)]

（3）1990年州議会選挙

7月16日、17日の両日に実施された州議会選挙は、与党PBSと、USNO、

BERJAYA、DAP の他、元 PBS のカダザンドゥスン人政治家で州副首相も務めたコディン（Datuk Mark Koding）が1988年に設立した人民正義党（Angkatan Keadilan Rakyat; 以下、AKAR と略す）や、元 BERJAYA の華人政治家に率いられたマルチ・エスニック政党の自由民主党（Liberal Democratic Party; 以下、LDP と略す）等、7政党と24名の無所属候補が参加した。[39]

選挙の争点は、PBS が掲げたものは、石油生産額における州の鉱区使用料割当ての増額（これは木材輸出の削減による州財源の減少を埋め合わせる意味もあった）、州内での連邦警察による政治犯の逮捕を正当化している国内治安法の見直し、インドネシア・フィリピンからの不法移民の追放、ラブアンの州の管理権の回復、州独自のテレビ局設置、サバ大学設立等で、いずれも連邦政府の利害とは対立するものであった。[40]

これに、他の多くの政党も追随して反連邦的な主張を強めたため、マハティール連邦政府首相は警告を発し、「国内治安法は争点とすべきでない、投票日には治安要員を増派する（警察と軍は州政府ではなく、連邦政府の管轄）」と述べた他、石油生産額からより多くの支払いを求めるサバ人の要求に対し、「サバはかつてマレー半島部から援助を受けて豊かになったのだから、今は他の州を援助すべきだ」と主張した。[41] そして、野党第一党である USNO は、争点としてパイリン州首相の縁故主義（クローニズム）強化とキリスト教徒のカダザンドゥスン人優遇による経済管理の失敗を取り上げ、これを非難すると共に、USNO が与党になった場合は縁故主義や腐敗と戦うことを請け合った。[42]

選挙後の各党の獲得議席数は、PBS36、USNO12で、他は当選者無しであったが、PBS はカダザンドゥスン人・ムルット人・華人の多い選挙区で支持を得ただけでなく、多くのムスリムのエスニック・グループの候補を立て、ムスリム有権者たちの支持も増加させている（36名の PBS の当選者には、ムスリムが10名含まれている）。[43] これは PBS 側に、ある程度まで、真の意味でエスニック・グループ横断的な政党に発展しようとする志向があったことを示していると思われる。

問題は、パイリン州首相ら PBS 指導部の州選挙後の対応だった。まず、同党党内では、閣僚ポストの配分をめぐる調整が難航し、マルチ・エスニック政党の抱える問題の難しさが浮き彫りにされた。[44] 続いて、パイリン首相は、選挙の争点で掲げた連邦政府への要求がいずれも却下されたことから、「サバは、クアラ・ルンプルの指導者たちから、連邦内で公正な扱いを受けておらず、その要望は留意されているとは思えない」として、10月21日に連邦議会

選挙（総選挙）を控えた同月15日夜、突然与党BNからの脱退と野党の46年精神党（Semangat 46）との提携を発表する。[45]

パイリン首相は、総選挙で46年精神党ら野党側が健闘して、BN政府に圧力がかかり、選挙後サバに多くの利権がもたらされることを期待したのだろうが、その目論見は外れ、選挙結果は180議席中、BNが127議席の安定多数を獲得して勝利した。[46] そして、連邦政府の維持に成功したBN側は、連邦からのサバ援助予算の削減（1990年の3億370万M$から91年には1億7090万M$に半減）と、サバへのUMNO支部の設立という2つの手段でPBSへの報復を行ったのである。[47]

これらによって、PBS州政権が被った痛手は大きかったが、さらに連邦政府は総選挙の際に違反を理由に1990年12月にヨン（Yong Teck Lee: 楊徳利）州副首相ら4名を警察に一時逮捕させた上、翌年1月にはパイリン州首相自身の州政府事業と木材伐採権付与をめぐる汚職を明らかにした。[48] そして、1月末にはムスタファUSNO党首が辞任してUMNO入りを表明、5月の補欠選挙ではUMNO候補として当選、さらにパイリン首相の弟のジェフリー（Jeffrey Kitingan）が国内治安法で一時警察に拘束された。[49]

以上のように、PBSは、党内では複数のエスニック・グループ間の利害調整という難問を抱え、党外では連邦政府与党の政治的・経済的攻勢を受ける、三重苦の状態におかれた。そして、汚職等でパイリンの政治指導力にも陰りが見える中で、1994年州議会選挙を迎えざるを得なくなったのである。

## III　PBSとサバ州議会選挙（1994－99）

### （1）1994年州議会選挙

2月18日、19日の両日に実施された州議会選挙は、与党PBSと、サバUMNOを中心にAKAR・LDP・サバ進歩党（Sabah Progressive Party; ヨン元副首相がPBSを脱退して設立した政党、以下SAPPと略す）の4政党により構成されたBNと、DAP等の野党4党と、32名の無所属候補が参加した。[50]

選挙の中心的な争点は、サバの利権の拡大を訴え、連邦政府と対立する今までのPBSの政策を是認するか、UMNOを中心とするBNの介入を認め、代わりにその開発政策の恩恵を受けるかであった。[51] 選挙戦中、「サバ人のサバ（Sabah for Sabahan）」を訴えるPBSに対し、マハティール連邦政府首相は、パイリン州政府首相の汚職を攻撃し、カダザンドゥスン人はよりよい

指導者を見つけるべきだと述べた（また、マハティール首相は、国民戦線が勝利した場合、州首相は非ムスリムの土着エスニック・グループ・ムスリム・華人が2年ずつ輪番制で務めることも公約した）。[52]

一方、パイリン首相は、ヨン元副首相のような党からの脱党者や、自らの汚職の問題を抱えていた他、州の老朽化したインフラの改善のための資金援助が必要だったため、激しい連邦政府への非難とは裏腹に、どこかで妥協点も探らねばならない弱さを持ち合わせていた。[53] なお、選挙中の不正行為について一言触れておくと、PBS は BN がフィリピンからの不法移民を投票に参加させたと非難したが、一方で有権者や候補者に対する買収合戦には BN だけでなく、（PBS を含む）複数の政党が絡んでいたと言われている。[54]

このような泥試合に近い形態の選挙の後、各党の獲得議席数は、PBS25、BN23（サバ UMNO18、SAPP3、LDP1、AKAR1）で、僅差で一応 PBS の勝利となった。[55] そして、州政府首相として、就任宣誓を受けにサイド（Tun Mohamed Said Keruak）州元首の元に赴いたパイリン PBS 党首は、州元首から病気であることを理由に、宮殿の前で37時間待たされた。[56] そして、州首相公邸に集まって、パイリンの宣誓終了を待っていた PBS の当選候補たちは、自分たちの意思でそうしているのかと、警察官から二度にわたって事情聴取を受けている。

パイリン首相は、2月21日に漸く宣誓を済ませるが、そこから大逆転が起こる。2月末から3月17日までの間に、PBS 議員に対する BN 側の猛烈な切り崩し工作が行われ、これに屈した議員たちが次々PBS を去って行き、最後までパイリン首相に従ったのは僅か3名の議員のみという状況になったのである。[57]

このため、PBS から BN への議席数の移動が起こり、BN は安定多数の30名を獲得した3月16日の時点で、パイリン州首相に代えてサバ UMNO のサカラン（Tan Sri Sakaran Dandai; ムスリム）を州首相に指名、サバ州で初めての BN 内閣が誕生した。[58] パイリン元首相は、BN が PBS 議員を買収したと非難したが、実弟のジェフリーやクルップ（Datuk Joseph Kurup）書記長等のカダザンドゥスン人の幹部までが PBS を去ったのは、マハティール連邦政府首相と関係が悪いパイリン首相の元では、これからのサバ州にとって必要な連邦政府の援助を得るための、関係修復が困難だと判断したためと考えられる。[59] パイリン元首相にとって、1990年の BN 離脱のつけは高くついたのである。

（2）1999年州議会選挙

3月12日、13日の両日に実施された州議会選挙は、サバUMNO・AKAR・LDP・SAPP・サバ人民団結党（Parti Bersatu Rakyat Sabah; クルップ前PBS書記長が設立した政党、以下、PBRSと略す）・サバ民主党（Parti Demokratik Sabah; ドムポック［Datuk Bernard Dompok］前PBS副党首が設立した政党、以下、PDSと略す）等の7政党により構成された与党BNと、PBS、そしてハリス元州首相に率いられたサバ人民戦線連合党（Parti Barisan Rakyat Sabah Bersekutu; 以下、BERSEKUTUと略す）等の野党5政党と、27名の無所属候補が参加した。[60]

選挙の争点は、過去の州議会選挙と同様、サバの経済発展のあり方をめぐる問題が中心だった。[61] 選挙戦中、パイリンは自党が勝利したら連邦政府と良好な関係を目指すと言いつつも、連邦政府がサバの石油権益とラブアン島を盗んだと攻撃し続け、ハリス元州首相等、BERSEKUTUもこれに同調した。[62] サバの経済発展のためには、連邦政府に譲渡された権益の回復が必要だとの考えを示したものであるが、BN側はこれに対して地元の新聞に広告を出し、その中にサバからの石油権益をペトロナスに1976年に譲渡させた際の文書のコピーを載せ、サバ側の署名者はハリス、立会人はパイリンであったことを示した。[63]

そして、BNの応援に駆け付けたマハティール連邦政府首相は、「より大きな（サバ州への連邦政府の援助）予算の配分は、BNが勝った時にのみ与えられる」と強調し、華人票の取込みのために、「平和・安定・進歩」のキャッチ・フレーズを使った。[64] パイリンは、マハティール首相の発言に対して「マハティール医師（マハティールは医師の資格をもつ）は、自分がマレーシアの首相であり、州のために予算を配分する義務があることを覚えておくべきだ…彼は有権者を経済制裁で脅している」と批判した（PBSのキャッチ・フレーズは「サバを救うために団結しよう」であった）。[65]

なお、選挙に参加した諸政党は、有権者に米や小麦粉、草刈り機、モーターボートのエンジン等の物品を配布していたと言われており、与野党を問わずかなりの買収が行われた模様である（不法移民の幽霊投票者; Phantom Votersの投票も何件か摘発された）。[66] この他、これまでのPBS州政権下の選挙と異なるのは、BN州政権側が選挙区の区画改定を行い、48の選挙区の内、27はムスリムの有権者が多数派になるように変更されたことである。[67] 図1に、区画改定前と改定後の選挙区の区割りと、ムスリム有権者の居住地域の相関を示したが、ムスリム中心のBNが有利になるようにゲリマンダー

が行われた可能性が高い（そして、この改定は当然、99年11月29日に実施されることになったマレーシア総選挙を睨んでのものであったろう）。

選挙後の各党の獲得議席数は、BN31（サバUMNO24、SAPP3、PDS2、LDP2）、PBS17で、他の政党はBERSEKUTUを含め、1議席も取れなかった。[68] BNは、州議会の3分の2を占める安定勢力を確保したわけだが、彼等にとっては困ったことも起こった。それは、ドムポック州首相を含め、BNの主要なカダザンドゥスン人指導者3人が全て落選してしまったことだった。[69] このため、1994年から実施されてきた州首相の輪番制（99年は98年のドムポック前首相に引き続き、カダザンドゥスン人が首相となるはずであった）は守れなくなり、やむなくムスリムであるサバUMNOのオス（Datuk Osu Sukam）書記長が州首相となった。[70] PBSは、党としてはBNに敗れたものの、パイリンのカダザンドゥスン人を中心とする有権者への影響力は、ドムポック前州首相らPBSからの脱党者たちの当選を阻むには十分だったのである。

## 若干の考察

本稿では、サバ州の社会や政治の環境との関連から、PBSの盛衰を跡付けてきた。それらの検討の結果から見て、政党としてのPBSの脆さの原因は、少なくとも三つあることがわかる。第一は、サバ州の複合社会は流動的な性格が強く、PBSの主要な支持母体であるカダザンドゥスン人も、エスニック・グループとしての凝集力が弱いことである。このため、複数のエスニック・グループにまたがる、イスラムのような凝集力の強い宗教を求心力に使え、かつ資金力のあるUSNOやUMNOのような政党と選挙で競い合った場合には、買収等で有権者や議員の党への忠誠心が揺らぎ、分裂が生じてしまう。

第二は、財政や軍事・警察力等の力関係において、サバ州政府とマレーシア連邦政府の間に大きな差があり、後者の前者への介入が避けられないことである。サバ州政府は、PBS政権以前の時代から、連邦政府の財政支援を受けなければ州の開発が出来ない状況だったし（第五次マレーシア計画の時点でも連邦開発援助の5.9%を受領しており、受領配分額は被援助州全体の中で第五位である）、石油は元々シェルや帝国石油、エクソン等の外国企業が探査して生産を始めたもので、州政府が自力で掘り当てたわけではない。[71]

さらに、サバに駐屯している軍と警察は連邦政府が直接指揮しており、イ

図1：99年州議会選挙における選挙区区画改定の概要

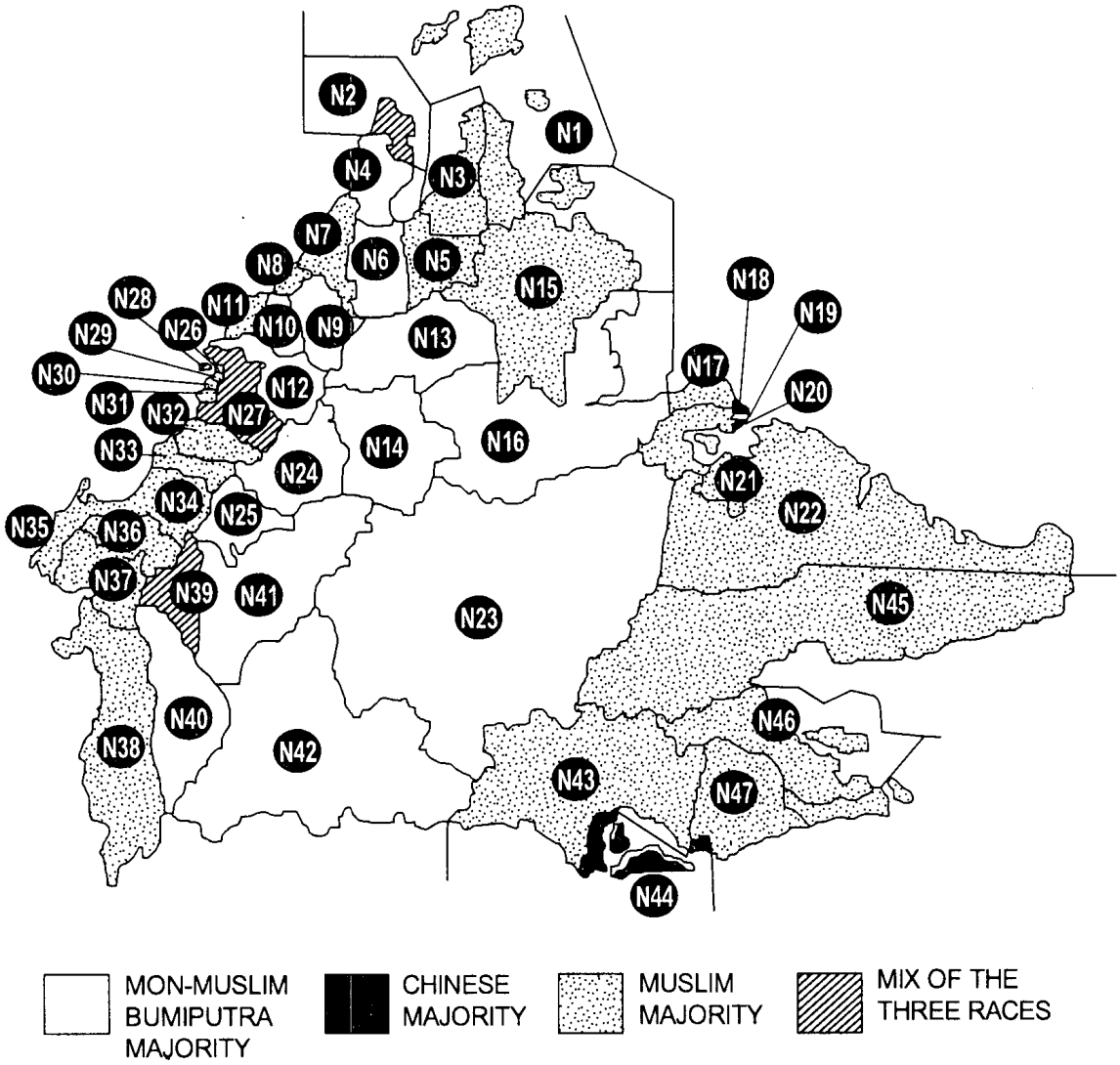


図1A：［Luping：478］に示された1994年までの選挙区区画と各エスニック・グループの多数派居住区（多数派選区）の相関関係

ンドネシアやフィリピンからのムスリム移民の管理や、過激な野党の政治家を含む州内の政治犯の逮捕は意のままである。州政府の意向がどうであれ、連邦政府の介入は避けられない。

第三は、第一・第二の点と絡んで、党首のパイリンの指導者としての資質にも問題があることである。パイリンは、度々述べてきたように縁故主義や汚職で批判を受けてきたし、党内の閣僚ポスト配分をめぐるエスニック・グループ間の調整でも指導力を発揮出来ず、脱党者が出ている。流動的な複合社会において、求心力を発揮すべきマルチ・エスニック政党の指導者が流動性と遠心化を助長するような行動をとったことは問題である。さらに、1990

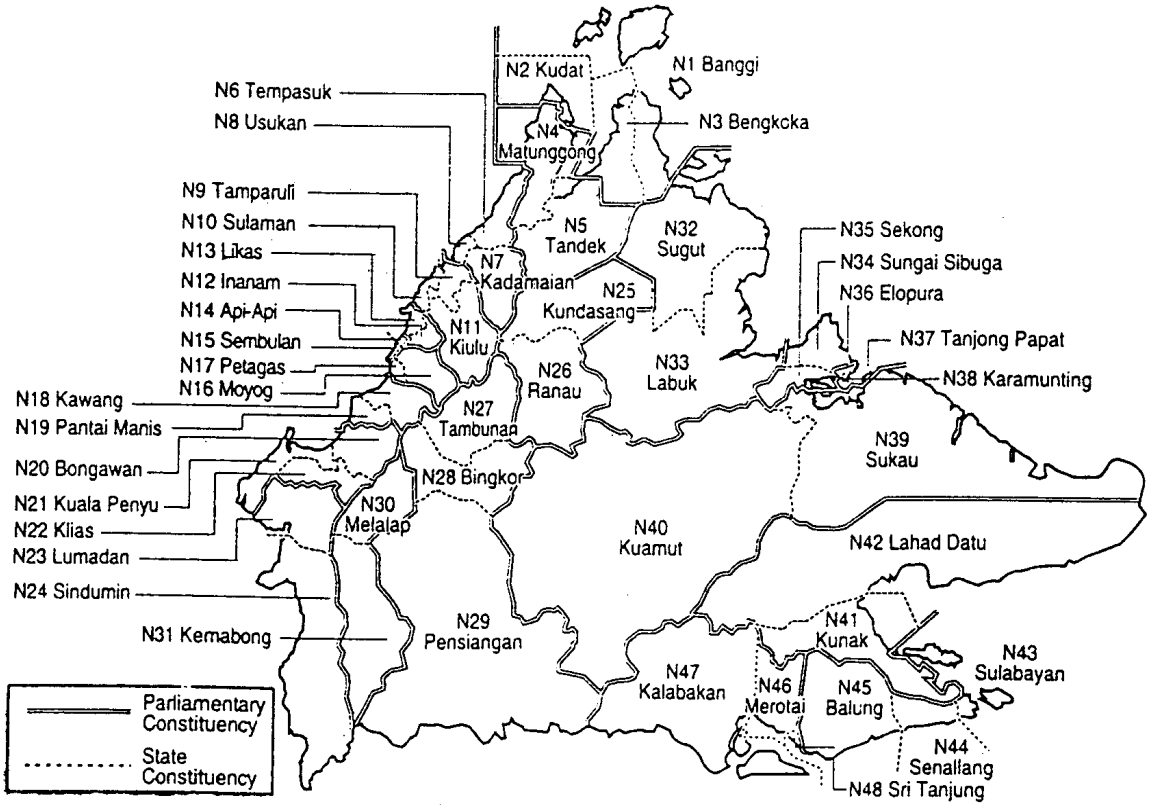


**図１Ｂ：*New Straits Times*, 13 Mar. 1999.に掲載された1999年の選挙区区画**

ゲリマンダーの可能性のある区画改定は、例えば図１Ａの白抜き番号のN6（非ムスリムのエスニック・グループ多数派選区）とN5（ムスリム多数派選区）が、図１ＢではN5一つに合併されてしまっている例や、これも同じく図１Ａの白抜き番号のN43とN47の区画（ムスリム多数派選区）が、図１ＢではN47、N46、N45の３選挙区に分割されている例に見られる。

年にはPBSをBNから脱退させ、野党の46年精神党との提携に踏み切るという最大のミスを犯した。財政力でも警察力でもかなわない相手と、交渉するのではなく、戦うことを選んだのは反連邦感情に負けたもので、彼の政治的センスを疑わせるものである。

今後もPBSは、サバ州の有権者の間にカダザンドゥスン人を中心とした反連邦感情がある限り、野党としての政治活動を続けることは可能であろう。だが、上記の三点の問題に対応出来るような党の改革を行うか、他政党との連立が出来ない限り、政権の座に返り咲くことは難しい。最悪の場合は、パイリンの個人政党に転落して行くことになるだろう。

## 注

1）エスニック・グループとは、言語・宗教・文化（慣習）・歴史的背景・遺伝的特徴等のいくつかを共有する人間集団である。[平野健一郎・山影進・岡部達味・土屋健治 1988]、の諸論文、及び［岡部 1989］を参照。

2）[Furnival: 446-469] を参照。ファーニバルが用いたのは、遺伝的特徴による区分である人種（race）という言葉である。だが、現在は混血が進んでおり、これだけで人間集団の区分を行うのは適切ではないので、エスニック・グループに改めた。因みに、筆者は東南アジア諸国の内政を理解する上で鍵となる概念は、この複合社会と、[Huntington]等が提示している権威主義体制の、二つであると考えている。

3）この点についてはごく簡単ではあるが、[山本 1999] でも触れられている。

4）[Department of Statistics Malaysia. 1991] より筆者算出。

5）[岡部 1989: 14]。

6）西マレーシアの複合社会について、[Firdaus]、[萩原] を参照。

7）[萩原宜之；村嶋英治:53-84]。

8）以下、[Department of Statistics Malaysia. 1991] のサバ州分冊より筆者算出。

9）[Luping: 4-6]、[山本 1993: 21]。Lupingは、ドゥスンという言葉はブルネイの君主がサバの非マレー人の住民に対して用いたもので、マレー語が起源であるとしている。1998年８月10日の筆者のPenampang地区のカダザン人（Monsopiad Cultural Village：博物館）の説明員からのヒアリングでは、カダザン人は平野部の農民であり、丘陵地帯の住人であるドゥスン人とは違うとの答えだった。両者の間には服装にもエスニックな特徴の差異があるという。[Lasimbang, Rita; Moon-Tan, Stella]。1989年の命名は公的な機関によるものであろうが、[Department of Statistics Malaysia. 1991] が、統計上でカダザン人とドゥスン人を分けているように、政府刊行物においても、現在も徹底してはいない。マレーシアにおけるエスニック・グループ（種族）の境界の区分けについては、[鳥居：14-17] を参照。

10）[Luping: 4-6]。

11）[Luping: 20]、[田村: 7]、[山本 1993: 22 ] を参照。

12）マレー語の使用の義務付けは英国の植民地時代に遡るが、マレーシアに参加してからは、ムスタファ州首相の時代に促進された。[Luping: 36]、[Tilman: 499-500]。

13）[Juweng: 199]。カダザンドゥスン人の間では、自分たちがNunuk Ragangという木の下に住んでいた神の子孫であるという共通の神話がある。[Luping: 3]。

14）[Department of Statistics Malaysia. 1991（サバ分冊）:128] より筆者算出。1960年の統計から算出したデータを比較のために記すると、アニミズムその他が68%、キリスト教徒24.9%、ムスリムは6.8%である。Jones, L. W. 1960. *North Borneo, Report on the Census of Population Taken on 10th August.* Kuching: Government Printing Office. p.223.（本資料は、1998年10月31日のアジア政経学会全国大会で、京都大学の左右田直規氏が報告の中で紹介された）。カダザンドゥスン人のアニミズムについては、[Luping: 2-3]、[Williams: 17-33] を参照。

15）[Luping: 10]。

16）[Luping: 33]。エスニック・グループの文化（慣習）を、どのように説明するかは難しい問題である。筆者は、よく飲食物のタブーを例に取って、各エスニック・グループ間の文化の違いから生ずる社会的距離を説明している。例えば、マレー人及びムスリムのエスニック・グループの場合、一般に豚肉を食することがタブーで、

飲酒も好ましくないとされているが、いわゆるインド人の場合は牛肉を食することがタブーである。そして、華人の場合は、比較的飲食物のタブーが少ない。カダザンドゥスン人の場合も、豚は食するし、椰子酒等の飲酒の習慣もあるので比較的飲食物のタブーは少ないと言えるであろう。[Williams: 75-77]、及び、1998年8月10日の筆者のPenampang地区のカダザンドゥスン人集落での酒瓶の実見による。また、文化を服装の面から考察した文献としては、前出の［Lasimbang, Rita; Moo-Tan, Stella］が興味深い。これを見ると、カダザンドゥスン人の範疇に一纏めにされている諸グループ、特にカダザン人であると自覚している人々の間にも地域毎に微妙な衣服の差異があることがわかる。

17) ［Sather］を参照。
18) [Sather: 12]。
19) ［Department of Statistics Malaysia. 1991（サバ分冊）:129］より筆者算出。
20) 1998年 8月10日の、筆者のTuaran Mengkabong地区での実見による。
21) 正確には、UPKOは1961年に、後述するステファンが中心となって設立した統一カダザン国民組織（United National Kadazan Organisation; UNKO）に、1962年に成立した統一パソ・モモグン国民組織（United National Pasok Momogun; Pasok Momogun)が合流・合併して、1964年に成立した政党である。[Ongkili: 62-63]。
22) [Ongkili: 67-74]。
23) [Tilman: 495-509]。
24) [Ongkili: 71-74]、[Luping: 345]。
25) [Ongkili: 73-74]、[Luping: 336-337]。
26) [Ongkili: 74]。
27) [木村 1986: 310-338]、[東南アジア調査会 85: 61-63]。なお、選挙日程が4月20日と21日にまたがっているのは、交通の便の悪い奥地の有権者のために投票日が2日間に分けられているためである。以下の選挙についても同様である。こうした投票方式について説明した例として、[Ramalingam 1986a] を参照。
28) [Luping: 331]、[Ismail 1985]。PBSは、マルチ・エスニック政党であるので、ムスリムの党員もいたが、集票力は大きくなかった。なお、本稿では選挙に関する新聞記事の引用において、マレーシアの*New Straits Times*紙よりもシンガポールの*Straits Times*紙を重視しているが、それは、日本における入手の難易度の差に加えて、*New Straits Times*がBN連邦政府寄りで、サバの諸政党の主張や、彼等の連邦政府への批判をあまり載せていないとの印象を、筆者が持っているためである。
29) [木村 1986: 310-338]。サバ州の諸エスニック・グループの中で、ムスリムのグループは、マルチ・エスニック政党に投票する場合でも、ムスリム指導者に率いられている政党に投票する傾向が強く感じられるが、これはムスリム同士の文化的絆の強さだけでなく、連邦政府与党のBNを主導する、UMNOの支持と資金援助が、ムスリム中心の政党に流れていることとも関係があると考えられる。
30) [Ismail 1985]。なお、サバの州元首は、象徴的な存在で実権はあまりない。
31) [Juweng: 188-189]。
32) [Juweng: 188-189]。
33) [木村 1987: 322-352]、[東南アジア調査会 1986 ]。
34) [Luping: 411]、[Ramalingam 1986c]。
35) [Luping: 407-416]。
36) [Luping: 411]、[NSTP 161]、[Ramalingam 1986b]。
37) [Luping: 425]、[木村 1987: 336-338]。

38) [AFP; Bernama; New Straits Times]、[木村 1987: 336]。ここで問題になっている当選候補の利益誘導による所属政党の変更や、あるいは有力な政治家のいる政党への鞍替え等の現象は、未発達な政党制度の弱さを示すもので、権威主義体制下の政党政治の典型的な特徴の一つである。[Huntington: 397-461] に詳しい。
39) [東南アジア調査会 1990]。
40) [AFP; Bernama: Reuter]、[Juweng: 190]、[Kalimullah 1990a]。
41) [Bernama 1990a]、[Bernama 1990b]、[Bernama 1990c]。なお、[National Printing Department: 38]によると、1990年のサバ州の一人当たりGDPはM$4500で、マレーシア国内平均のM$4392を上回っており、ペナン州に次いで第五位である(第一位はクアラ・ルンプルのM$7608)。統計の上では、確かにマハティール連邦政府首相の言う通り、半島部の多くの州の方が貧しいことになる。だが、問題は、原油等の生産額の連邦政府との分配状況（注71を参照）や、サバ州内での所得の格差、特に交通の便が悪く開発の遅れた奥地と、発展した沿海部の格差が是正されているか、であろう。新聞報道では、1999年時点でもサバ州内には一所帯の月収がM$300（1万円弱）程度の地区がまだあるという。[Pereira, Brendan 1999c]。
42) [AFP; Bernama; Reuter]。
43) [Juweng: 190]、[東南アジア調査会 1990: 63]。
44) [Bernama 1990d]。問題は、副主席大臣のポストをめぐるカダザンドゥスン人、華人、ムスリムの党員の間の争いの調整だったようである。
45) [Ahmad, Osman; Bernama; Kalimullah, Hassan]。
46) [Ismail 1990]。
47) [Bernama; Kalimullah, Hassan 1990]、[Juweng: 190]。
48) [Bernama 1990e]、[Juweng: 191]、[木村 1992: 336]。
49) [Kalimullah 1991a]、[Bernama; New Straits Times]、[Kalimullah 1991b]。なお、ムスタファはこの後1994年2月にはUMNOを脱退、94年州議会選挙には2人の息子をPBSから立候補させる挙にでる等、サバ州の政治に陰然たる影響力を行使し続けた。1995年1月2日死去。[Lee]、[Kalimullah 1995a, 1995b]。
50) [Luping:480]、[東南アジア調査会 1994: 53-54]。
51) [Lee]。
52) 因みに、BN側のキャッチフレーズは“Sabah Baru”（新しいサバ）であった。[Luping: 480]、[Lee]、[山本 1999: 82]。
53) [Luping: 480]、[New Straits Times 1994a, 1994b]、[Lee]。
54) [Vinasithamby]、[Lee]。
55) [Ismail, Kassim; Kalimullah, Hassan]、[東南アジア調査会 1994]。
56) 以下、[Kalimullah, Hassan 1994a]、[Ismail, Kassim; Kalimullah, Hassan]、[Kalimullah, Hassan 1994b]、[Bernama; Kalimullah, Hassan1994] を参照。
57) [Kalimullah, Hassan 1994d, 1994e]。なお、注38を参照。
58) [Kalimullah, Hassan 1994c, 1994d]。
59) [Ismail, Kassim 1994]、[Kalimullah, Hassan 1994e]。
60) [東南アジア調査会 1999]。
61) [Pereira, Brendan 1999a]、[Pereira, Brendan 1999b]、[Bernama; Reuter]。
62) [AFP; Bernama 1999a]。
63) [Pereira, Brendan 1999a]。
64) [Pereira, Brendan 1999b]。
65) [Pereira, Brendan 1999c]、[Bingkasan, Joseph]。

66) [Bernama; Reuter]、[Pereira, Brendan 1999d]、[Pereira, Brendan 1999g]。
67) [Pereira, Brendan 1999e]。
68) [Pereira, Brendan 1999f]、[東南アジア調査会 1999]。
69) [Pereira, Brendan 1999f]。
70) [AFP; Bernama 1999b]。
71) [National Printing Department: 64]。援助は全国の13の州とクアラ・ルンプルの他、複数の州にまたがるプロジェクトにもなされている。また、サバ州の石油探査は、[村上: 126-149] によれば、英国の直轄植民地時代の1956年頃にまで遡る。ただ、原油輸出額を見ると1995年時点で、M$1,366,000,000となっており、現在 5%と言われている石油の鉱区使用料を含む、州予算のM$1,384,630,000とほぼ同額の大きさである。これでは、確かにサバ州民が鉱区使用料を引き上げろと、不満を漏らすわけである。[上東: 101-102]。

## 引用参照文献

〔外国語文献〕


AFP; Bernama. 1999a. Mahathir 'no' to ties with PBS if it wins in Sabah. *Straits Times,* 6 Mar. 1999.

_____. 1999b. Sabah Umno chief is new chief minister. *Straits Times,* 16 Mar. 1999.

AFP; Bernama; New Straits Times. 1993. Sabah anti-hopping law illegal, rules court. *Straits Times,* 19 Mar. 1993.

AFP; Bernama; Reuter. 1990. PBS issues tough manifesto. *Straits Times,* 4 July 1990.

Anderson, Benedict. 1983. *Imagined Communities.* London: Verso. (アンダーソン, B. 1987.『想像の共同体』白石隆・白石さや (訳)。東京：リブロポート)。

Ahmad, Osman; Bernama; Kalimullah, Hassan. 1990. Front 'can still win' despite PBS pullout. *Straits Times,* 17 Oct. 1990.

Ashari, Manis; et al. 1999. The Sabah elections 1999. *New Reality,* March - April 1999. Kuching: Tamar Media Sdn Bhd.

Bernama. 1990a. Accept other Malaysians, Mahathir tells Sabahans. *Straits Times,* 20 Jan. 1990.

_____. 1990b. Sabah wants higher oil royalties to make up for loss in log exports. *Straits Times,* 22 jan. 1990.

_____. 1990c. Mahathir warns Sabah parties on anti-federal issues. *Straits Times,* 9 July 1990.

_____. 1990d. PBS 'faces problems' as leaders wrangle over ministerial posts. *Straits Times,* 23 July 1990.

_____. 1990e. Four PBS men face illegal march charge. *Straits Times,* 22 Dec. 1990.

Bernama; Kalimullah, Hassan. 1990. Umno branches set up in response to PBS pullout. *Straits Times,* 19 Oct. 1990.

_____. 1994. Forcus: Sabah Elections. *Straits Times,* 22 Feb. 1994.

Bernama; New Straits Times. 1991. Mustapha resigns as Usno president to join

Umno in Sabah. *Straits Times,* 31 Jan. 1991.
Bernama: Reuter. 1999. Sabah election. *Straits Times,* 15 Mar. 1999.
Bingkasan, Joseph. 1999. BN, PBS and Bersekutu all confident of forming next government. New *Straits Times,* 6 Mar. 1999.
Department of Statistics Malaysia. 1991. *Population and Housing Census of Malasyia* 1991. Kuala Lumpur: Government of Malaysia (本統計は全体で15分冊構成).
Federal Department of Information. 1976. *Sabah Annual Report* 76-77. Kota Kinabalu: Government of Sabah.
Firdaus, Abdullah. 1996. Multiculturalism in Malaysia, the Roots of Diversity and Routes towards Unity, Conference Paper for ISA-JAIR Joint Convention on "Globalism, Regionalism and Nationalism: Asia in Search of its Role in the 21st Century" 21-22 September 1996: 1-30.(フィルダウス, A. 1998.「マレーシアにおける多文化主義－多様性のルーツと統合へのルート」『21世紀の日本, アジア, 世界』日本国際政治学会 (編訳)。東京：国際書院)。
Furnival, J. S. 1939. *Netherland India, A Study of Plural Economy.* London: Cambridge University Press.
Huntington, S. P. 1968. *Political Order in Changing Societies.* New Haven: Yale University Press.
Ismail, Kassim. 1985. Ruling party suffers big defeat. *Straits Times,* 22 Apr. 1985.
_____. 1990. Front's victory shows enduring dominance of race in politics. *Straits Times,* 23 Oct. 1990.
_____. 1994. Sabah likely to get closer to centre with collapse of PBS. *Straits Times,* 17 Mar. 1994.
Ismail, Kassim; Kalimullah, Hassan. 1994. Focus: Sabah Election. *Straits Times,* 21 Feb. 1994.
Jones, L. W. 1966. *The Population of Borneo, A Study of the Peoples of Sarawak, Sabah and Brunei.* London: The Athlone Press.
Juweng, Stepanus. 1993. Turbulences in Sabah and Sarawak and Its Implications for Indonesia. *Indonesian Quartarly.* XXI/2, 1993 : 187-201.
Kalimullah, Hassan. 1991a. Mustapha's win gives Umno foothold in Sabah. *Straits Times,* 13 May 1991.
_____. 1991b. Jeffrey Kitingan arrested under ISA. *Straits Times,* 14 May 1991.
_____. 1994a. Pairin staying put at Sabah Istana gates. *Straits Times,* 21 Feb. 1994.
_____. 1994b. Kitingan sworn in after 37 hours of suspense. *Straits Times,* 22 Feb. 1994.
_____. 1994c. Federal minister picked to lead Sabah. *Straits Times,* 17 Mar. 1994.
_____. 1994d. New Sabah leader sworn in. *Straits Times,* 18 Mar. 1994.
_____. 1994e. 'The only honourable thing to do.' *Straits Times,* 18 Mar. 1994.
_____. 1995a. Sabah's ex-chief minister Tun Mustapha dies. *Straits*

*Times,* 3 Jan. 1995.

_____. 1995b. From houseboy to party leader. *Straits Times,* 3 Jan. 1995.

Lasimbang, Rita; Moo-Tan, Stella. 1997. *Traditional Costumes of Sabah.* Kota Kinabalu: Natural History Publications (Borneo) Sdn. Bhd.

Lee, Kim Chew. 1994. Sabah polls fought mainly on racial, anti-federal sentiments. *Straits Times,* 19 Feb. 1994.

Luping, Herman. 1994. *Sabah's Dilemma, the Political History of Sabah* 1960-1994. Kuala Lumpur: Magnus Books.

National Printing Department. 1991. *Sixth Malaysia Plan 1991-1995.* Kuala Lumpur: Government of Malaysia.

New Straits Times. 1994a. PBS urging NF assemblymen to defect, says Sabah leader. *Straits Times,* 25 Feb. 1994.

_____. 1994b. Sabah to amend laws to make jail term mandatory for graft cases. *Straits Times,* 26 Feb. 1994.

NSTP Research and Information Services. 1990. *Elections in Malaysia, A Handbook of Facts and Figures on the Elections 1955-1986.* Kuala Lumpur: NSTP Research and Information Services.

Ongkili, James P. 1989. Political Development in Sabah, 1963-1988, Kitingan, Jeffrey G.; Ongkili, Maximus, eds. 1989. *Sabah, 25 Years Later 1963-1988.* Kota Kinabalu: Institute for Development Studies (Sabah). 61-79.

Pereira, Brendan. 1999a. National Front not sure of Sabah win. *Straits Times,* 10 Mar. 1999.

_____. 1999b. Sabah polls win vital for NF. *Straits Times,* 11 Mar. 1999.

_____. 1999c. More fund? Vote NF, Sabahan told. *Straits Times,* 12 Mar. 1999.

_____. 1999d. Sabahans go to the polls. *Straits Times,* 13 Mar. 1999.

_____. 1999e. NF predicts it will win 28 of 48 seats in Sabah polls. *Straits Times,* 13 Mar. 1999.

_____. 1999f. Emphatic win for NF at Sabah polls. *Sunday Times,* 14 Mar. 1999.

_____. 1999g. Chief minister loses uphill battle. *Sunday Times,* 14 Mar. 1999.

Rahman, Abudul. T. 1977. Looking Back: the historic years of Malaya and Malaysia. Kuala Lumpur. Pustaka Antara. (ラーマン, A.T. 1987.『ラーマン回想録』小野沢純〔監訳〕。東京：勁草書房)。

Ramalingam, Albert. 1986a. PBS confident of getting a two-thirds majority. *Straits Times,* 6 May 1986.

_____. 1986b. PBS (26 up) retains power. *Straits Times,* 7 May 1986.

_____. 1986c. Sabah elections marred by bomb blasts. *Straits Times,* 7 May 1986.

Sather, Clifford. 1997. *The Bajau Laut.* Kuala Lumpur: Oxford University Press.

Tilman, Robert O. 1976. Mustapha's Sabah 1968-1975, The Tun Steps Down. *Asian Survey.* XVI, No.6, June 1976 : 495-509.

Vinasithamby, Dharmalingam. 1994. Lost Tribe, The Shadow Life of Filipinos in

Sabah. *Asiaweek*. April 20, 1994: 34-39.
Williams, Thomas Rhys. 1965. *The Dusun, A North Borneo Society*. New York: Holt, Rinehart and Winston, Inc.

〔邦語文献〕
萩原宜之. 1967.「マラヤのコミュナリズムと国民的統合」『国際政治36』東京：日本国際政治学会. 27-44。
萩原宜之；村嶋英治. 1987.『ASEAN諸国の政治体制』東京：アジア経済研究所。
平野健一郎；山影進；岡部達味；土屋健治. 1988.『アジアにおける国民統合』東京：東京大学出版会。
上東輝夫. 1999.『東マレーシア概説』東京：同文舘。
木村陸男. 1986.「1985年のマレーシア」『アジア・中東動向年報1986年版』東京：アジア経済研究所. 310-338。
_____. 1987.「1986年のマレーシア」『アジア・中東動向年報1987年版』東京：アジア経済研究所. 322-352。
_____. 1992.「1991年のマレーシア］『アジア動向年報1991年版』東京：アジア経済研究所. 326-358。
村上勝敏. 1980.『アジアの石油』東京：日本国際問題研究所。
岡部達味. 1989.「ASEANにおける統合と華人・中国」『ASEANにおける国民統合と地域統合』東京：日本国際問題研究所. 1-28。
佐藤寛. 1991.「1990年のマレーシア」『アジア動向年報1991年版』東京：アジア経済研究所. 358-392。
田村慶子. 1988.「マレーシア連邦における国家統一－サバ、サラワクを中心として－」『アジア研究』1988年10月：1-44。
東南アジア調査会. 1985.「サバ選挙の結果」『東南アジア月報1985年4月号』東京：東南アジア調査会. 61-63。
_____. 1986.「サバ州議会選挙」『東南アジア月報1986年5月号』東京：東南アジア調査会. 55-56。
_____. 1990.「サバ州議会選挙の実施」『東南アジア月報1990年7月号』東京：東南アジア調査会. 63-64。
_____. 1994.「サバ州議会選挙の実施」『東南アジア月報1994年2月号』東京：東南アジア調査会. 53-56。
_____. 1999.「その他の内政、経済」『東南アジア月報1999年3月号』東京：東南アジア調査会. 72-73。
鳥居高. 1999.「国家が管理する曖昧な『種族の境界』－マレーシア－」『アジ研ワールド・トレンド』1999年6月：14-17。
山本博之. 1993.「サバのマレーシア加入とカダザン・ナショナリズム」『アジア経済』1993年11月：18-36。
_____. 1999.「マレーシア・サバ州の州首相輪番制の導入で問われるもの」『アジ研ワールド・トレンド』1999年1-2月：82-88。

（追記）

本稿執筆中の2月28日、ASEAN・マレーシア研究の泰斗、萩原宜之独協大学名誉教授が突然逝去された。御冥福を御祈り致します。